

次世代のがんプロフェッショナル養成プラン 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 (連 携 大 学 名)	九州大学 (福岡大学、久留米大学、産業医科大学、佐賀大学、長崎大学、 熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学) 計 11 大学
事 業 名	次世代の九州がんプロ養成プラン
事 業 責 任 者	九州大学大学院医学研究院長 赤司浩一
事 業 の 概 要	
九州の 11 医療系大学大学院が、過去 16 年にわたる密接な連携を基盤とする拠点を形成し、第 4 期がん対策推進基本計画において求められる人材の育成の強化を実現する。各大学は当該地域のがん医療のニーズも考慮し、大学の規模や特徴に基づいた大学院プログラムを設置して、九州全体で各テーマの人材育成を目指す。テーマに関する専門講義に加え、大学病院の放射線治療、病理診断、がん疼痛緩和、小児がん医療、腫瘍内科等の各部門との強力な連携に基づく実地教育を行う。拠点内の合同講義・研修の実施とともに、e-ラーニング、遠隔通信を利用した広域にわたる大学間連携を実現し、離島僻地医療や多職種連携を含む教育体制を構築する。特に新規治療法開発やがん予防等の研究を推進する人材育成には、拠点内大学間のみならず、拠点間、国外の医療・研究教育機関と共同で取組み、我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○九州全域をカバーするため参加大学も多くそれぞれの特徴もあり、多くの人材が養成されることが期待される。</p> <p>○医師に関しては様々な専門医をシステムティックに養成するプログラムが組まれており、多数のがん医療専門医師が育成されることが期待される。</p> <p>○テーマ③に関しては、九州大学にプレジジョン医療学講座が設置され、ゲノム情報に基づいたがん研究に関わる人材養成が期待される。</p> <p>○長崎県や沖縄県のような離島地域に定着するがん医療者の育成を考慮しており、離島・僻地医療についての取組は、他では無い特徴で高く評価できる。</p> <p>○九州大学大学院医学研究院長が統括することが明示されており、そのリーダーシップにより診療科・職種横断的な実施体制が期待される。</p> <p>○「事業運営推進協議会」の設置により具体的な検討を行う旨の記述があり、連携大学や他機関等との連携が十分に図られることが期待される。</p> <p>●福岡のような大都市から離島や少子高齢化を抱える地域まで様々な環境にある大学が連携しており、目的や方向性、不足する人材の異なる様々な大学が相乗りしているため、目的や方向性に沿った小グループを形成するなど、実効性の伴う運営体制の構築が求められる。</p> <p>●養成されたがん専門医療人が福岡など大都市に集中せずに適切に配置されるような具体的な取組を示すことが望ましい。</p> <p>●テーマ①に関して、今までに行ってきた教育基盤をどのように発展的に見直すのか明確にすることが望ましい。</p> <p>●医師以外の医療職の養成を目標としたコースも充実されることが望ましい。</p> <p>●テーマ③に関するインテンシブコースの設定の有無が不明確であるため、明確にする。</p> <p>●アウトカムとして各種がん関連資格取得者数の具体的な目標値を設定することが望ましい。福岡県では放射線科専門医数にシーリングがあるなどの状況を勘案した人数設定も望まれる。</p>	

- 患者市民参画（PPI）の観点から、外部評価委員会に患者もしくは市民の立場からの評価が行われるのが明らかではない。
- 進捗状況の評価結果を次に活かし、発展的に計画を見直すことが望まれる。
- 成果の普及に関しては一般的な記述のみであり、社会への情報発信をどのように行っていくのか前もって具体的に検討しておくことが望ましい。
- 事業継続についても具体的な記述が見受けられず、事業継続のための資金分担、外部資金獲得等を視野に入れておくことが望ましい。